7 「ごんぎつね」新聞について

名前

大西さんの学級では、読書新聞を作って読んだ本をしょうかいすることになりました。大西さんと西川さんは、新美南吉作「ごんぎつね」をしょうかいする読書新聞を書きました。次の**【大西さんが作った読書新聞】**と**【西川さんが作った読書新聞】**をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【大西さんが作った読書新聞】

「ごんぎつね」新聞

発行
11月9日
発行者
大西　明

ほんとうは、ごんは？

畑のいもをほりちらかしたり、ほしてあるなたねがらに火をつけたり……、ごんは、いたずらばかりしていました。とうとう、ごんのいたずらのせいで、兵十のおっかあは、うなぎを食べられないまま死んでしまいました。ひとりぼっちになった兵十に、ごんはつぐないをしようと、いわしを投げ入れたけれど、結局、兵十をひどい目に合わせてしまいました。

このいたずらの一歩おくにあるごんのほんとうの気持ちを想像しながら読むと、兵十のことを心配する、心やさしいごんのすがたがうかんできます。「ほんとうは、ごんは？」と問うことを通して、すなおで一生けんめいなごんの気持ちにせまることができます。

心に残るこの一文

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへもってきてやりました。

《説明》
一生けんめい兵十をなぐさめようとしているごんのやさしさが伝わってきます。この前、友達の言葉の表面だけをとらえて、けんかをしてしまいました。この一文はそんなぼくに、「ほんとうの気持ちに気づいて」と語りかけてくれます。

読者へ一言

「ほんとうは、ごんは？」と問いながら読み始めたきっかけは、同じ作者が書いた「てぶくろを買いに」です。物語の中で、母さんぎつねが「ほんとうに、人間はいいものかしら。」とつぶやきます。その答えを求めて、ほんとうの気持ちやすがたを考えながら「ごんぎつね」を読むようになりました。

【西川さんが作った読書新聞】

「ごんぎつね」新聞

発行
11月9日
発行者
西川花子

★

「ごん、お前だったのか、……。」

兵十が、ごんの思いに気がついたのは、ごんが火なわ銃で打たれ、たおれたあとでした。なぜ、もっと早く気づくことができなかったのでしょうか。ごんも兵十も、けっして悪い人物ではないのに、なぜ、こんな悲しい結末になるのでしょう。「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」という物語の最後の一文に、兵十のこうかいと、ごんの悲しさやくやしさが重なり、読み返すたびにむねがいたくなります。

ごんと兵十、それぞれの立場に立って読むと、心がすれちがうことの悲しみ、わかり合うことのむずかしさがひしひしと伝わってきます。

心に残るこの一文

兵十のかげぼうしをふみふみ、行きました。

《説明》
兵十のかげをふめるほど近くにいるのに、ごんは、どうしても声がかけられない。わたしにも、「ごめんなさい」の一言が伝えられず、苦しい思いをしたことがありました。だから、この一文のごんの苦しさやつらさを、自分のことのように感じます。

読者へ一言

心のすれちがいをえがいたほかの物語を、いっしょに読んでみましょう。たとえば、あまんきみこ作「おにたのぼうし」も、心がすれちがうことの悲しみをえがいた物語です。「ぼくは、おにだよ。」の一言が言えずに消えてしまう主人公のおにたと、自分の思いを伝えられないごんのすがたが重なってきます。二つの物語を重ねて読む中で、ごんのつらさや悲しさがより強く感じられますよ。

一　**【西川さんが作った読書新聞】**の**★**に入る**見出し**として、もっともふさわしいものを、あとの1から4までの中から**一つ**選んで、その番号を書きましょう。

1　心やさしいごんのつぐない
2　いたずらをしたごんのこうかい
3　すれちがうことの悲しみ
4　ごんと兵十の深い結びつき

二　大西さんと西川さんの読書新聞の**心に残る一文**の《説明》の文章には、共通している書き方のくふうがあります。もっともふさわしいものを、あとの1から4までの中から**一つ**選んで、その番号を書きましょう。

1　ことわざや言い伝えを引用している。
2　自分の経験と結びつけて書いている。
3　たとえやかざる言葉を多く用いている。
4　ごんに話しかけるように書いている。

三　大西さんは、**【西川さんが作った読書新聞】**の**読者へ一言**を読んで、気がついたことを話しました。**【大西さんが気がついたこと】**の**ア**・**イ**に入る言葉を、次の**【条件】**に合わせて書きましょう。

【大西さんが気がついたこと】

ぼくは、同じ新美南吉が作った物語を読むことによって、ごんのほんとうの気持ちやすがたを考えながら読むようになりました。西川さんは、**ア**読むことによって、ごんの**イ**ことができたのだと思います。

【条件】
○　西川さんの読み方や感じ方を**【西川さんが作った読書新聞】**の言葉を使って書くこと。
○　**ア**は、「西川さんは、」に続けて書き始め、「読むことによって、」につながるように、十字以上で書くこと。
○　**イ**は、「ごんの」に続けて書き始め、「ことができたのだと思います。」につながるように、十字以上で書くこと。

ア…西川さんは、

読むことによって、

イ…ごんの

ことができたのだと思います。

〈平成29年度春徳島県学力ステップアップテストより作成〉